

(様式1)

ながのまちづくり活動公開審査申込書

申込年月日	平成25年2月1日	受付番号	7
活動部門・コース	1 企画・研究部門	2 実践活動部門	① ホップコース (スタート枠) ② ホップコース ③ ステップコース ④ ジャンプコース
団体の名称	(フリガナ) 「ショカトドコロノマチ」ヲメダスジツクワイイソカイ 「唱歌と童謡のまち」をめざす実行委員会		
団体の所在地			
代表者	(フリガナ) ヨシモト タカユキ 氏名 吉本 隆行		
連絡先 (連絡責任者)			
団体の設立年月日	平成23年1月19日		
団体の 設立目的	長野市は、童謡唱歌の日本百名歌に選ばれた故草川信、海沼實、坂口淳、山上武夫氏など、我が国を代表する作詞・作曲家を多く輩出した全国的にも希な都市でありながら、本市にはこうした功績を顕彰する適当な施設はなく、また、偉人が遺された業績を継承していく体制も未整備の現状を鑑み、平成23年1月、前記の先人の功績を讃え、継承する活動を通して長野市を音楽文化で新たな魅力を発信するために「『唱歌と童謡のまち』をめざす実行委員会」を設立した。		
団体の 活動実績	■ 事業 平成24年8月26日(日)「唱歌と童謡のまち」をめざすコンサート開催 このコンサートでは、3代目海沼実氏(作曲家故海沼實氏孫)及び山上哲夫氏(作詞家故山上武夫氏長男)等を招聘したシンポジウム及び「唱歌と童謡のまち」をめざすコンサート(シンポジウム及びコンサートあわせ有料入場者830名)を行った。 ■ 定例会議など ・4/8 公開審査 ・会議実績 4/12、5/2、5/10、5/23、5/30、6/28、6/30、7/6、7/12、8/7(市長陳情)、8/19、9/21、11/6、12/15 ・高野辰之記念館、中山晋平記念館視察・調査：平成25年1月10日(木)		

構成員（会員） 数	20 の団体及び個人	
応募する活動の タイトル	第2回「唱歌と童謡のまち」をめざすシンポジウム 日本のこころを伝える唱歌・童謡と音楽記念館の果たす役割	
活動の目的及び 達成目標	<p>【目的】 唱歌・童謡が誕生した歴史と日本の音楽文化や地域への影響及び現状の評価、今後のあるべき方向性について研究。また、唱歌・童謡の誕生・発展に果たした長野県出身者の功績と顕彰について提言するために、次の活動を行う。</p> <p>① 唱歌・童謡の生まれた背景と日本の音楽文化への影響について学ぶ。 ② 長野県出身の作詞・作曲家の活動と実績について学ぶ。 ③ 学校教育における唱歌・童謡の変遷と現状について学ぶ。 ④ 音楽記念館の現状と課題、今後の展望、役割について考える。 ⑤ 文化芸術によるまちづくりの推進と文化芸術による新たな観光戦略の研究</p> <p>【今年度の達成目標】</p> <p>① 長野市における（仮称）音楽博物館（記念館などを含む）について具体的に提案する。 ② 新市民会館での音楽資料コーナーの設置について提案する。 ③ 新市民会館を中心とした市民の音楽文化の振興について提案する。 ④ 「唱歌と童謡のまち」による元気なまちづくりの手法や観光戦略について提案する</p>	
活動の具体的 内容	<p>長野県内にある音楽関係の資料館の館長（高野辰之記念館、中山晋平記念館、おぼろ月夜の館、てるてる坊主の館など）及び伊澤修二先生を顕彰する音楽祭の実行委員会の責任者の方などに集まって頂き、会館や活動の現状、意識や効果、資料の保管や維持管理などの運営上の課題、今後の活性化の方策などについて論議して頂く。更に、長野市の新たな市民会館の竣工を機に、日本の近代音楽をリードし、唱歌と童謡の日本独自の音楽文化を築いてきたてきた長野県出身者の活躍を振り返り、学校教育や社会教育を通じて音楽文化による地域づくりについて、その方向性を見いだしていきたい。</p>	
月 次 計 画	4月	① 「唱歌と童謡のまち」をめざす平成25年度事業の立案 ② 県内の音楽記念館等の調査計画の策定
	5月	① 音楽記念館の視察及び館長など出演者との交渉 ② 新市民会館に関する行政当局との情報交換
	6月	① 音楽の流れるまちづくりについて公共交通事業者等との懇談 ② 長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書の検討（第1回） ③ 第2回「『唱歌と童謡』について」のシンポジウムの準備・広報
	7月	① 第2回「『唱歌と童謡』について」のシンポジウムの準備 ② 長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書の検討（第2回）
	8月	第2回「唱歌と童謡のまち」をめざすシンポジウム
	9月	① 第2回「唱歌と童謡のまち」をめざすシンポジウムの整理 ② 長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書の検討（第3回）
	10月	長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書の検討（第4回）
	11月	長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書の検討（第5回）
	12月	長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書（最終案）の検討（第6回）
	1月	長野市版（仮称）「音楽博物館」建設を求める提案書（最終案）の検討（第7回）及び教育委員会への提出
	2月	平成25年度活動報告書及び決算書の提出
	3月	

(注)：上記の日程は予定であり、別途実行委員会で確定します。

必要経費

(単位 円)

科 目	金 額	
謝金・賃金	190,000 円	
旅費交通費	80,000 円	
消耗品費	10,000 円	
印刷製本費	80,000 円	
会議費	20,000 円	
通信・運搬費	10,000 円	
会場費等の使用料	100,000 円	
雑費	80,000 円	
合 計	^A 570,000 円	

自己資金

名 目	金 額	
会費	252,000 円	
寄附金・協賛金・広告費	30,000 円	
事業収益金	60,000 円	
合 計	^B 342,000 円	

補 助 金 要 望 額 (C)

【企画研究部門】 Aの金額以下、ただし10万円以内

【実践活動部門】(スタート枠) $A \times 0.8$ の金額以下、ただし 50 万円以内

(ホップ) $A \times 0.8$ の金額以下、ただし 100 万円以内

(ステップ) $A \times 0.6$ の金額以下、ただし 60 万円以内

(ジャンプ) $A \times 0.4$ の金額以下、ただし 40 万円以内

$$c = A - B$$

228,000 円

(千円未満切り捨て)

<p>期待される地域や社会への具体的な効果・成果</p> <p>※「公益性」の視点</p>	<p>① わがまちの音楽文化の資産（作曲家、作詞家、演奏家の作品、業績、愛用品、遺品、遺族）に接することにより、小さな子どもたちから高齢者に至る幅広い年齢層に対し、郷土への誇りや愛着、将来への夢や希望感を醸成し、文化芸術都市としての新たな「長野の顔づくり」に貢献できる。</p> <p>② 文化芸術に敷居の高さを感じていた市民層に対し、唱歌や童謡など馴染みのある音楽により、新たな文化活動への関心や新たなファン層を創造できる。</p> <p>③ 小学校は平成23年4月、中学校は平成24年4月に全面改訂の学習指導要領の音楽教科では高野辰之作詞の「日のまる」が小学校1年、草川信作曲の「夕やけこやけ」、高野辰之作詞の「春が来た」が小学校2年、小学校3年以降でも高野辰之作詞の曲が歌唱教材に採用されている。本会の活動は学校教育への後方支援とともに、社会教育活動としても唱歌や童謡運動は、地域づくりへも大きな支援の手段として効果が期待できる。</p> <p>④ 「唱歌と童謡」の活動は、特に高齢者の皆さんには、余暇の活用のみならず、子ども時代を思い起こし、生きる励み、生き甲斐を感じるひとときの楽しみとして役立つのみならず、健康長寿にも効果が期待できる。</p>
<p>活動を継続するための取り組み（資金面、人材等）</p> <p>※「自立性」の視点</p>	<p>唱歌と童謡は、日本人に共通するところの絆であり、時を超えた愛唱歌、人生の応援歌です。「唱歌と童謡」のルーツをたどれば、江戸から明治へと日本の急速な近代化政策の中で、西洋の文化の理解に長野県出身の伊澤修二、神津専三郎、高野辰之等の果たした功績をなくして語ることはできません。その延長線上において、『唱歌と童謡のまち』をめざす実行委員会』の事業は、教育、文化、産業、地域などあらゆる行政政策の観点からも、本来は長野市が、更に広域的には長野県が行うべき事業であることは自明であります。</p> <p>前記の功績者はじめ本市では故草川信、海沼實、坂口淳、山上武夫、小山清茂氏などは、日本が世界に誇れる音楽文化の一つとして県民全体で顕彰し、継承し、更なる音楽文化の発展に努める責務が私たちにあるのではないのでしょうか。</p> <p>本欄「この活動を継続するための取り組み（資金面、人材等）」について、特に「自立性」の視点から言うならば、ハードは行政が、ソフトは民間が、という役割分担になります。『唱歌と童謡のまち』をめざす実行委員会』の活動は、元来、収益を得て自立できる事業ではありません。日本独自の「唱歌・童謡」という音楽文化の有形無形の価値を再発見し、また、20年以上も音楽の教科書から「唱歌・童謡」が消えてしまったが故に、今の青少年層が「唱歌・童謡」を歌えなくなってしまったことなども考え、日本が世界に誇れる「唱歌・童謡」を広く歌い継がれていくことを願い必要な事業を行っています。</p> <p>4年目以降、公的支援が途絶え今までの活動はできません。新市民会館の建設を機に、文化行政に目覚めた長野市に生まれかわることを切望してやみません。</p>
<p>翌年度以降の活動内容の概要</p>	<p>当面は新市民会館の平成27年4月新装開館まで、子どもから大人、高齢者まで、参加しやすい多種、多様な活動により文化芸術都市「ながの」をめざした活動をしていきます。</p> <p>平成27年4月以降については、長野市の文化芸術振興計画と連携しながら、民間の活動として本市の文化芸術の発展、「唱歌と童謡のまち長野」の浸透、地域の文化力による市民の音楽文化活動を更に促進し、冬季オリンピックの開催都市にふさわしいまちづくりにつなげたいと考えています。</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>長野市及び長野県、そして日本の「唱歌と童謡」の発信拠点として（仮称）音楽博物館を市内の適地に建設するよう関係機関に要望するとともに、21世紀の新たな「唱歌と童謡」の創作の拠点、音楽文化の発信基地として文化芸術による地域の活性化と振興に貢献していくこと。</p>